

平成 13 年 1 月 30 日

雑司谷小 3 年生、郷土資料館収蔵庫を社会科見学

一目で見て手で触れて「むかしの道具調べ」

本日 30 日（火）、豊島区立雑司谷小学校（永瀬隆行校長）では、3 年生の社会科見学コースのひとつとして、区立郷土資料館の収蔵庫（千早 2-39-3、旧平和小学校内）を訪れ、昔の農具などさまざまな生活資料を見学した。

この収蔵庫は、旧平和小学校（平成 11 年 3 月統廃合により閉校、現在は西部区民事務所）内にあり、3 室の空き教室を利用して設けられたもの。主に区民から寄贈された農具など約 5000 点の資料が保管されている。普段は保管庫として鍵がかかっている部屋だが、今日はその扉を開き、雑司谷小学校 3 年生 12 人を迎え入れた。

この日の見学では、郷土資料館の学芸員の案内でさまざまな収蔵資料が紹介された。50 年ほど前に使われていたという乳母車や、戦時中に区内の小学生が疎開先の山形県のお寺で使っていたオルガン、お湯を沸かすための大きな釜、大根洗いに使った楕円形の大きな盥（たらい）、鍬（くわ）や「唐箕」（とうみ）などの農具、木製の冷蔵庫など、教科書やテレビでしか見たことのないものや初めて目にするものなど、数々の昔の道具を興味深く見学した。また、ふたつの桶を天秤棒でかついで歩いてみたり、昔の学校で使われていた座り机「天神机」（てんじんづくえ）の前に正座してみたりと、生の資料に触れる体験もした。

実際に鍬を持ってみた子どもたちは、「思ったより軽い」と口々に感想をもらしていたが、「重すぎたら作業できるかな。これを何時間も使って畑をたがやすのよ」との学芸員の言葉に「毎日やったら疲れるだろうな」と、農作業の大変さを想像したようだった。木製の冷蔵庫には「どうやって冷やすのかな」「電気がないよね」と不思議そうだったが、上の棚に氷を入れて下の棚のものを冷やすしくみの説明を受けて、「氷がとけちゃったらどうなるの」と素朴な疑問をあげていた。また、12 人全員でグルッと囲める風呂桶ほどの大きな盥や、子ども一人ではとても重くて持ち上げられない杵など、その大きさや重さを実感できた様子だった。この後、子どもたちは見学したさまざまな資料を思い思いにスケッチした。

郷土資料館では、区民から寄贈された貴重な生活資料をただ保管しているだけではなく、こうした形で子どもたちの学習に役立てることで、生きた資料の活用を図っていきたいと考えている。

詳細：社会科見学について 雑司谷小学校
資料について 郷土資料館